

安倍・トランプ「へつらい外交」



写真は毎日新聞 5月 27日朝刊 1面。まずは米メディアから。ゴルフから大相撲観戦に炉端焼き一。米メディアは 26日、トランプ大統領に対する日本側の厚遇ぶりを大きく取り上げた(毎日 27日夕刊)。

米紙ワシントンポスト(電子版)は、大統領がゴルフ場で安倍晋三首相と自撮り写真に納まり、東京・六本木の炉端焼き店での夕食会では和牛ステーキを楽しんだことなどを紹介。「大統領はほぼ観光客として 1日を過ごした」と皮肉った。

米紙ウォール・ストリート・ジャーナル(同)は異例づくめとなった大統領の大相撲観戦の様子を詳報。升席で椅子に腰掛け、米国大統領杯の授与のために土俵に上がった際はスリッパを履いたことを伝え、「伝統に縛られた相撲界を揺さぶった」と評した。

CNN テレビは安倍首相の接待は、世界中で大統領と最も親密な友人となるための試みと指摘。人目を引くへつらい方は他国首脳モデルとなってきたが、「首相が貿易や(北朝鮮をめぐる)安全保障の問題で成果を得られるかは不透明だ」とやゆした。

28日社説「米大統領への特別待遇 長期の国益にかなうのか」も 1面見出しの重要な問題も取りあげている。抜粋して紹介したい。

国賓として来日しているトランプ米大統領はきのう安倍晋三首相と会談した。天皇陛下とも会見し、宮中での晩さん会に出席した。首脳会談では、焦点の日米貿易交渉の議論を急ぐことで一致し、北朝鮮問題について認識の綿密なすりあわせをしたという。

政策課題で大きな進展がない中、際立ったのは、トランプ氏への異例のもてなしだ。「令和初の国賓」としての接遇にとどまらない。5度目のゴルフでは笑顔のツーショットを自撮りした。ソファを升席に並べた大相撲観戦では米大統領杯を新設し優勝力士を表彰する機会を設けた。夕食では炉端焼き店に招き、伝統的な和食をごちそうした。

目を疑うようなニュースがあった。ゴルフ直後にトランプ氏が発したツイッターの投稿である。日米貿易交渉について「7月の(参院)選挙後まで待つことになるだろう」と明かした。

米国は日本の米国産農産物に対する関税の早期撤退を求めている。しかし、参院選前に合意を急げば安倍政権に不利になるおそれもある。投稿は、選挙前に譲歩を迫られる交渉は避けたいという安倍政権の意向を反映したものだだろう。

だが、それであまりに目先の損得にとらわれていないか。安倍政権の「政権益」になっても、国益にそうかはわからない。有権者を欺く行為と言われても仕方ないだろう。そうした「取引」があるなら、トランプ氏はいずれ見返りを求めてくるだろう。大統領選を控えて要求を高めてきても不思議ではない。

(2019年 5月 29日)